

地域の皆さんと共に活発な活動を 代表委員 遠藤正久 (子母口)

新年明けましておめでとうございます。
多くの企業、又各団体、個人の方々の支えによりまして「森とせせらぎネットワーク」は主たる活動がお陰様で順調に進んでいます。ここに感謝とともに厚くお礼を申し上げます。

今年の千支「千」(うま)は物事が「うま」くいく「幸運」が駆け込んでくる縁起のいい動物といわれています。ネットワークの行事も千支にあやかって幸せな時間

祭りのこれまでを振り返って

企画部 久保博文

桃栗三年柿八年という言葉は、何事も成就するまでにそれ相應の年月がかかるということですが、「森とせせらぎ祭り」の7年を企画部からみてみます。

一年目に人形劇団「ひとみ座」の故石川嘉輝さんによって蒔かれた種が芽を出しました。新城から井田山までをつなぐ祭りにしてスタート。井田の森・江川せせらぎ・下小田中小・新城の村上アート等を会場に、盲導犬や人形とのふれ

「江川せせらぎ」の維持管理は今!

稲本文雄



中谷倭文乃作 根川緑道の風景

「せせらぎシンポジウム」は、今年6月第5回を数え、近隣の皆様の協力を得て、川崎市の関係部署(下水道局、建設緑政局)を交えて、遊歩道を含む「江川せせらぎ」の環境改善をテーマとして、協議が進められてきました。その進捗状況については、その都度ネットワークニュースに発表されており、ご存知かもしれません。「江川せせらぎ」も、遊歩道開設以来十年となり、開設当時には考えていなかった問題が、はつきりと見えてきました。一つは、遊歩道の安全と美観の確保。もう一つは、せせらぎの美観と悪臭の改善です。今まで5回のシンポジウムを通して、市でも様々な試作や対策を講じて頂いていますが、恒久的な対策としては何れも満足が行くものとは、成っていません。これまでもご報告していますが「森とせせらぎネット」では、近辺各地の情報を頼りに、他の人工河川の見学や、EM液活用の検討などを積極的に進め、市の方たちにも協力要請を積極的に行ってきました。これらの活動は、市議会にも取り上げられ、問題意識が高まっています。

その一つの例として、昨年のネットニュース25号で「根川緑道」が紹介されています。「江川せせらぎ」と全く同じはずの人工河川が、立川に有り、人工河川とは思えない自然の空間が、此処には有りしました。「人工河川でも出来るのだ」と言う希望が、大きく膨らむ研修となりました。今、市では、十年後を目指す「等々力汚水処理施設」(江川せせらぎの源流となる施設)の大成造に、取り組み始めました。「根川緑道」に負けない、素晴らしい「夢の遊歩道」が、叶う時がもう、そこまで来ているのです。

～会員募集～

森とせせらぎネットでは「地域の子供達に、ネットの活動を通して、地域の人々とのふれ合いを深め、故郷を感じ又次の世代へと心を繋いでいって欲しい」そんな思いを込めて、江川遊歩道とせせらぎが、子供達と地域の住民に、もっと愛される為には如何すればよいか、日々考え活動しています。一時清流を得たせせらぎでしたが、河床の構造、穏やかな流速、直射日光による光合成の促進、カルガモや鯉などへの餌遣りによる栄養過多などによって、糸状性藻が大繁殖し、開設時の清流の面影は消えつつあります。遊歩道は周辺の住民のご努力により、いつも綺麗な草花が咲き乱れていますが、開設当初設置された案内図との違和感を感じざるを得ません。歩みは遅いですが、私達は改善に向けて今、一歩ずつ確実に歩を進めている所です。

**こんな団体ですが、ご協力を頂ける
新しい力を求めています。**

写真、パソコン、造園、土木建築、電気、上下水道関連などに詳しい方大歓迎です。
制約は全く御座いませんので、下記までお気軽にご連絡下さい。

【森とせせらぎネット】
代表 平井資嘉寿 副代表 松本浩次郎 事務局長 田辺勝義
TEL044-777-4005 TEL044-766-3833 TEL044-766-0550
090-5336-0035 090-8813-1076 080-3461-4003

ホームページから <http://www.seseraginet.sakura.ne.jp/>



管理等を地区管理運営協議会と連携しながら「せせらぎシンポジウム」の開催、独自の薄対策実験や施設の見学にて知識を高めた川崎市の下水道局の方々と薄対策について良い解決策を進めて行きます。夏には、毎年恒例になっている「せせせせらぎ燈籠流し」を行います。小さなお子様の願いを込めて身近では味わえない情緒ある光景です。沢山の方がお見えで盛況でした。(いろいろ改善の余地はありますが、是非期待して下さい。)

秋には、最大イベントの第八回「森とせせらぎ祭り」があります。子ども未来・地域ふれあいをテーマにメイン会場を橋公園で、式典や舞台演技、模擬店と又、別会

場にて恒例のお楽しみ行事がいっぱいあります。
近隣また近郊の方々の多くのご来場を待ちし万全を期したいと役員一同、おもてなしに心を込めて取り組むところです。
我々、せせらぎ祭り実行委員会も高齢化が進み何かと無理が生じることがありますが、地域の皆さんと共に活発な活動を推進することを念頭におきまして今年も宜しくお願いいたします。

で更に楽しい祭りに。
三年目は私が桃栗の実を結びせる役割でした。下小田中小の舞台発表に加え、模擬店会場にも本格的な舞台を設けました。当日晴天だったことで祭りは大成功となりましたが、石川さんや河野さんをはじめとしたこれまでのスタッフ様が様々な栄養を与えてくださった結果です。
四年目からメイン会場が橋公園になり、舞台発表と模擬店会場が一体化しました。この頃から祭りにテーマを持たせるといふことで、

ごみ分別の説明(2010年)や震災復興支援の現状とカンパ呼びかけ(2011年、2013年)、地震等の自然災害への危機管理(2011年)を取り入れました。
来八年目は柿が実る番ですが、原点の「新城から井田山をつなぐ」に副いながら沿道での模擬店出店や音楽ライブ等のアイデアも考えています。元々、江川せせらぎ遊歩道の完成を機に地域住民の親睦を深めようと始まったこのお祭り。高津・中原区の市民、学校町内会など参加協力し、実行委員会形式で進めるこの祭りは、市区町村で主催するものとは違った手作り感一杯のもので、余所ではあまり見られない祭りです。
この先も地域の連携を大事にしながら、生命や自然の尊さを未来ある子どもたちに伝えられたらと思います。

各地の祭を訪ねて 生活に根づいた世界遺産の祭

佐藤 克明

神奈川県三浦市の一地域に伝わる小正月の伝統芸能「チャッキラコ」は、国の無形文化遺産にもなっていました。二〇〇九年にユネスコの世界文化遺産に指定されました。およそ二百年にもわたって古い伝統がそのまま伝えられ、保存会など保存体制もよいということが高い評価を受けたということですが、

わたしが訪ねたのは、その前ですが、今も変わりなく続いているそうです。五歳から十二歳までの女の子が着物を着て、手に扇子やチャッキラコという鈴を飾りつけた彩竹を持ち、大人の音頭に合わせて踊ります。

演目は、チャッキラコを打ち合わせて鈴の音を聞かせて踊る「チャッキラコ」、二本の扇を両手で持ち、聞いて花のように合わせるのが美しい「二本踊り」など六つあります。

それを神社で奉納したあと、地域の店や家を回って、商売繁盛、家内安全などを祈願して踊ります。

子どもたちのかわいさも、正月らしい着物姿も晴れやかなことながら、地域と祭に溶け込んでいる自然な表情にほっとして、この伝統が続くことを心から願ったものでした。

かつては川崎の各地にも、このような地域に寄り添った祭と伝統芸能があったに違いありません。失われたものを取り戻すことはできないにしても、今あるものを大切にしていきたいという思いを強くしたチャッキラコでした。



写真はインターネットから借用



せせらぎ物語 運動の前史 その2

田辺勝義 (旧江川の水と緑を考える 会事務局長)

50年代に植えられた桜並木は地域の誇りになっていきましたが、高度成長の下で、矢上川流域の樹林地や農地は次々と宅地などになって行きました。そして、それが持ついた保水機能が失われたので、少しの雨でも川が氾濫するようになり、70年代には、台風でも来ようものなら床上浸水が必ず起こる程になりました。矢上川は「暴れ川」との異名を取るまでになっていました。

そこで、桜並木を伐採し、ボックス型の川にして流量を増やすという提起が市よりなされました。当然のことながら、「桜並木は残せ」という運動が起こりましたが、町会などが動くに至らず、この地域の誇りであった桜並木は消え失せました。しかし、ノスタルジーとしては強く残りました。特に、自ら桜を植えた者は。

ボックス型の川は水に親しめなければいか、一つは、それでも台風直撃などの時には洪水になったこと、もう一つは、普段は水量が少なく、下水道が完全でなかった矢上川、江川は悪臭を放つどぶ川になり、むしろ地域の鼻つまみもの状態に変わり果てて行きました。そこで市が打ち出したのが、巨大な雨

水貯留管を川の下部に埋設して、水量を吸収させ、洪水を防ぐという対策でした。そして、上部には高度処理をしたきれいな水を流す計画でした。

いよいよ次回から、親水緑道づくりの本史の始まりです。



中原区木月付近

“まちはミュージアム”が「せせらぎ遊歩道」を見学する

松本浩次郎

秋晴れの11月17日(日)、田辺さんに依頼された見学者が、11時過ぎに管理棟付近に現れました。男女半々くらいの25名もの大勢のメンバーにはビックリしました。代表の石川よし子さん、世話人の宮河悦子さん、案内された「まちはミュージアム」の本日のテーマは、「紅葉の中原パンジーの里へ」の花紀行でした。JR登戸に集まり、新城駅から、せせらぎの出発点「湧水の小径」。「桜のプロムナード」を経て、全龍寺、パンジーの里を散策して、管理棟に到着されたとのこと。小関橋脇の表示板で、「江川せせらぎ遊歩道」の成り立ち、地下貯水槽のこと、散歩者が溢れる遊歩道

ケイタイお気軽写真を募集しています。

灯ろう流しや森とせせらぎ祭りだけでなく普段せせらぎを利用されている方々の撮影した遊歩道周囲の気軽なケイタイ写真は是非お寄せください。管理棟での写真展などに掲示させていただきます。

写真の送りは下記QRコードへ



関連団体イベント紹介

◎森とせせらぎネット

○新年会 1月25日(土) 1時～ 井田共和会館1階(井田神社内) 会費1000円

◎市民健康の森を育てる会

○2月6日(木) 9時～ 井田山クリーンデイ
○2月8日(土) 9時～ 野鳥観察会
○2月16日(日) 9時～ シイタケ菌植付け

◎井田囃子保存会

○1月末～ 稽古 毎日曜日1時～2時 井田共和会館1階
参加者募集中!

◎神庭・里山を楽しむ会

○2月2日(日) 9時～ 大根収穫祭

※竹林管理、椎茸栽培の企画あり。詳しくは、861-7274(岩本)迄